初めに、ブアダ・ラグーンについて説明する。

ブアダ・ラグーンには木々が生い茂り緑が豊かで、美しい池がある。ここから、遠くに海が見えるそうだ。

ここにいると、自然を感じられそうだ。

次に、場所ではないが戦争の跡について説明する。

ナウルには、第二次世界大戦の時に日本に占領された跡が、様々な場所に残っている。

日本軍の基地跡は、本当にここに基地があったのかと思ってしまうほどにボロボロで落書きもされている。

日本軍の高射砲は、約７０年間置き去りにされており機体は赤くさび周りには草が生い茂っている。

戦闘機の残骸も、原形をとどめていずに、ボロボロになっている。

こういうものを見ると、終戦から今までの時間の進みと同時に日本の犯してしまった罪が頭によぎる。

最後にナウルの海について紹介する。

ナウルは太平洋上の島国だから太陽が日本よりも早く見れる。また、海から太陽がゆっくりどんどん昇ってくる美しい景色が見える。コロナが収まったら、ぜひとも行ってほしい。

サブ記事

ナウル共和国では、もともと、漁業や農業がおこなわれていた。

しかし、1888年に、ナウル共和国が、リンでできていると分かった。そして19世紀後半からリンを採掘し始め、20世紀後半には、莫大な収入を手に入れられ、様々なものがタダになった。

しかしそれにより、糖尿病、肥満の人が増えて、働く意欲をなくしてしまった。